

桑名市  
障害事業者ヒアリング報告書

令和2年  
三重県 桑名市



---

## 第1章 障害者団体

---

### 障害差別の解消を推進するために必要な施策について（意見）

---

- ✓ 災害や危機時になると、社会にある不平等による差別がより強まり、どうしても弱い立場の人が苦しむ恐れが生じる。
- ✓ 非常時の政策・意志決定・運用時にも優先順位がつけられるのではなく、又誰を切捨てていいかという考えをなくす。
- ✓ 差別排除なく弱者の権利がより重んじられる施策に転換して行く必要があると思う。
- ✓ 差別の解消のために多世代共生施設（福祉ヴィレッジ）の施策を推進して、それをモデルとして桑名市全体に発信していくことが、パンフレットなどより効果があると思う。
- ✓ 失語症という見えにくい障害に対する理解不足や、失語症者との接し方が分からない方はまだまだ多い。障害を理解する方が増えることで、差別や偏見が減ると思われるので、障害の特性や、会話する時の配慮項目を周知する。
- ✓ 訓練によって症状の軽減はできても、失語症の症状は生涯にわたって継続することが多い。日常生活でのコミュニケーションや社会的な孤立は深刻な問題である。聴覚障害者に対する意思疎通支援事業は進んできているが、失語症者のそれは遅れている。地域の中で生活していくには、失語症会話パートナーのような会話支援者が必要。失語症者向けの意思疎通支援者の養成を強く希望する。
- ✓ 災害時は早めに避難するように言っているが、そうする人は少ない。  
どこも子供はそれぞれ独立して年老いた障害者夫婦のみで、簡単に動き辛いことも原因なのかもしれない。
- ✓ 市民に対しての（障害に対する）意識付けが必要だと思う。

## 障害差別の解消を推進するために必要な施策について（取組）

- ✓ 福祉ヴィレッジ事業が早期に実現するように議会を傍聴したり、説明会に参加したりしている。福祉ヴィレッジが多世代共生社会の実現、差別のない桑名に、障害に対する理解につながると思って活動している。
- ✓ 毎回ではないが、会員以外も参加出来る勉強会を行っている。
- ✓ 災害時の食料の確保をしている。
- ✓ 助けが来るまでに時間がかかる、そのことを頭に入れて普段から考えておかねばと思っている。
- ✓ いろいろな公的行事に参加している。
- ✓ 手話や、筆談を使うことを周知する。

## 障害についての理解促進のために必要と思われる施策や活動について（意見）

- ✓ 障害者主催のイベントに、市民の方はあまり関心がなく参加される方が少ない現状はとても残念。障害について理解を深めるには、実際に障害のある方と関わり、話をし、時間をかけてお互いの気持ちや考えを知ろうという取り組みが必要だと思う。福祉に興味がない方も含め、様々な人々が自然につながり、交流が継続的に生まれる場所ができ、障害のある方を身近に感じてもらえるといい。
- ✓ ろう者が使っている手話を通訳する通訳者が少ないので、通訳者の養成をしてほしい。

## 障害についての理解促進のために必要と思われる施策や活動について（取組）

- ✓ ろう者の使う手話の習得のための講座をしている。
- ✓ 団体活動の内容について啓発活動をする。

## 障害のある方とその家族の方が日常生活を送るうえで困っていること、不安なこと、また必要な支援などについて

- ✓ 親子ともに高齢化で、体力・気力が失われつつあり、親なき後の事が案じられる。
- ✓ 今回のコロナウイルス等について、手洗い・うがい、検温、消毒、マスク等どれ一つとしてままならない毎日の生活の中で、もし感染となるとどう対処したらよいか…
- ✓ 本人は、「今の所、今の状態が続けばいい」と言っている。
- ✓ 親が体調不良のとき、食事介助、風呂など、具合が悪くてもなんとか頑張っているが、年々大変になってきている。
- ✓ 日常生活の介護全般が体力に追いつかなくなっている事から、今後の生活をどう維持していくかが不安。また、長期連休は、結構、体力を奪われる。
- ✓ 親の介護もあるので自分の体力がいつまでもつか。みんなも同じだと思うが、自分が倒れたら終わりという状態である。1日を何とか今はやっている。でもいつまで頑張れるのか、もし自分に何かあったらと思うととても不安。今、月に1度ショートを利用させてもらっているが、少し遠いのでいざという時、地元で対応して頂ける所があると良いなと思う。
- ✓ 子どもの体が大きい事が悩みなので、みんな同じかと思う。1人では抱っこが難しいのでこの先どうなるのかとても不安。今も1人介助の時は玄関から本人後ろの脇に腕を入れて、ズルズルと足を引きずり運んでいる。これしか方法がない。車椅子から下ろす時はまだよいが、乗せるのが厳しく、2人でないともう出来ない状況。ひどい腰痛の時にすぐ預かってもらえるかも心配である。
- ✓ 日常生活を送る中で、困ることはみんな一緒だと思う。土日や長期の休み、又、親の体調不良等の事情がある時に、安心して行かせられる所、24時間、365日いつでも受け入れOKな所、生活介護や日中一時が対応可能な場所が欲しい。他県にはあるのだから、これに近い施設が必要だと思う。
- ✓ 日常生活は今のところ少しの介助で出来ているので、私が入院したり等ではない限りは困っていないが、不安な事は他に色々ある。
- ✓ 困ったことは私が体調不良の時に介助はどうするのかだけど、やっぱり無理してでも仕方がないのでやっている。
- ✓ 親亡き後、どうしたらいいのか。施設にお世話になるのか。自分で暮らしが出来るようにした方がいいのか。本人もどうしたいのかわからないみたいで、親も決めかねている。
- ✓ 失語症は身体障害者手帳の申請をしても、認定されにくい。
- ✓ 現在の医療や福祉の仕組みでは、失語症に対するサポートは十分ではなく、病院のリハビリが終わっても患者の多くは職場や学業への復帰を果たせない。自宅を中心とした生活を送ることがほとんどで、自宅以外の居場所を求め、通常のデイサービスなどを利用しても、周囲とのコミュニケーションが難しく、利用をやめて

しまうことが多い。生きがいを見いだし、ソーシャルスキルを向上させたいが、失語症者が安心して参加できる場所がない。

- ✓ 病院で一定期間のリハビリが終了すると、その後専門的なりハビリを続けることが困難となり、言葉の回復が期待できなくなってしまう。
- ✓ 言葉の障害だけの方は、要介護認定で介護度が低く判定される。一人では生活できないのに、要介護とは認定されず、要支援の場合が多いので、十分な介護サービスの利用ができない。
- ✓ 言語障害者の多くは右手右足の身体障害を伴うことが多い。居宅介護・生活介護の各種サービスと利用する際、ヘルパー等の支援者は意思疎通を図るための技術が必要だが、そもそも失語症のことを知らない方が多い。
- ✓ 障害者本人が、自分が使える福祉サービスを把握できていない。
- ✓ 復職のために、就労の場面では職場の理解と協力が欠かせないが、職場復帰に向けての就労支援サービスの受け方が分からず、病気発症後は離職してしまう方がほとんど。
- ✓ 介護認定されなかった方は、生活をするうえで困ったときに、どこに相談してよいか分からない。
- ✓ 自分の気持ちを言葉で伝えることが難しいため、家の外では常に家族の手助けが必要な方が多い。失語症者が一人で生活するには、解決しないといけない問題が多くあり、家族が病気で入院することもできない。
- ✓ 以前、自治会長に選ばれたが、いろんな行事があり、とても無理だと思い断わりに行ったが、戸を開けたとたん、「おまえが受けないからまた集らなければいけない」と強い言葉で言われた。ある人が出来るところだけやってくれてあとはみんながカバーするからといわれ引き受けることになったが、心苦しかったのを覚えている。
- ✓ 聴覚障害者は、連絡手段にFAXだけでなく、メールも使う。一番ありがたいのは、電話リレーサービスが使えるようになること。

## 防災対策を推進するうえで必要と思われる施策や活動について (意見)

- ✓ 対人関係やコミュニケーションをとることが難しい。興味やこだわりが強い。問題行動がある等、長期の集団避難も困難。また複合災害も今後予測されるので、対策の根本的な見直しが必要だと思う。
- ✓ どこに、どの様な状態の障害者がいるのかを市が把握した上で障害者に特化した対策とシステム化が必要だと思う。また、医療的ケアが必要な人は医療対策も同時に考えて欲しい。
- ✓ 災害の時どう避難したらいいのか不安。一番近いところに小学校はあるが、避難したところで車椅子では不便だろうと思う。津波の際、高いところに避難となると、車椅子では難しい。それなら、家にいようかという考えになってしまう。
- ✓ 頭の中では地域に避難と分かっているけど、最近のコロナ問題も発生すると、障害者やその家族は安易に避難所には行きづらい。
- ✓ 失語症者は外見からは障害があることが分かりにくいので、避難所などで多くの方に紛れてしまい、手助けが必要な障害者であることを、周りの方が気づきにくく、支援できなくなる不安がある。
- ✓ 緊急時でも言葉で人に知らせることが難しいし、自分で知りたい情報や、して欲しいことを言葉で人に知らせることが難しい。個別に対応することが必要となる。
- ✓ 情報伝達時や避難誘導の際は、絵や図・文字を組み合わせることで理解しやすい案内版を作るなどの工夫をしないと、失語症者は状況把握が出来ない。
- ✓ 自閉症の人たちは変化を好まない。たくさんの知らない人たちと共に時間を過ごすのも苦手な人が多い。思った事を口に出し、周りの方々に不愉快な思いをさせてしまうかもしれない。色々な問題が起こる前に別の場所(例えば学校なら教室など)に避難場所を作ってもらえるか、自宅にいても物資(食料など)が手に入るような支援があるとありがたい。
- ✓ 肢体障害者・視覚障害者・聴覚障害者それぞれにうまく情報が伝わらないので不安をいただいている。
- ✓ 避難時の情報や避難所での手話通訳者の設置状況が、各自で確認できるようにしてほしい。
- ✓ 避難所での手話通訳者を増やしてほしい。
- ✓ 近所の方とコミュニケーションを大事にして、災害時には声かけをお願いする。

## 防災対策を推進するうえで必要と思われる施策や活動について (取組)

---

- ✓ 何年か前に市の防災の方に来ていただきお話を聞いた。
- ✓ 防災の意識を高めるため、時々保存食の話や避難袋について話し合いをしている。
- ✓ 手話通訳者の養成を行っている。

## 障害福祉サービス事業所のサービスについて、現在困っていること、また今後充実してほしいサービス等について

---

- ✓ 事業所のサービスについては、やはり日々の送迎は大変。しかし、人手不足など事業所側の事情もあり難しい問題である。この部分を市として支えて頂ける方法を検討して欲しい。
- ✓ 送迎はあるところと無いところ一部送迎ありの所があるが、親も年齢を重ね運転もいつまでできるか不安なのと、車への乗せ降ろしが大変になってきているので送迎してほしい。
- ✓ 療育の充実化
- ✓ 聴覚障害者との連絡方法を、FAXだけでなくメールでもできるようにしてほしい。またテレビ電話や、スマートフォンでの通信もできると良い。



## その他の福祉サービスについて、現在困っていること、また今後充実してほしいサービス等について

- ✓ 重度訪問介護を受けてもらえるように単価を上げて欲しい。儲からないから、少ないということ無くして欲しい。四日市は普通に利用出来る。
- ✓ サービスの中で困っている事は移動支援の事で、今、月に 15 時間利用しているが、どうしても 15 時間で足りない時にどうしたらいいのか悩むことがある。15 時間でおさまるように使用しているが、例えば一泊二日で旅行に行きたいとか考えた時に全然足りないので、15 時間で足りない分は次の月の移動支援の時間を足して使えないとか、そういった使い方が出来れば、広い範囲で移動支援が使えるのではないかと考える。
- ✓ 今後についての部分は親が子供を支えられなくなった時、今の生活(通所施設、医療、訓練など)を維持できるためのサービスが充実している事、また、その後の子供の人生の行先が住み慣れた桑名であってほしい事につきる。
- ✓ 一人で外出が困難な失語症者に対して、障害を理解している方による外出時の支援サービスのさらなる充実を希望。
- ✓ STや失語症の障害を理解して接することが出来る職員がいるデイサービスやデイケアをつくってほしい。
- ✓ 事業所にも手話通訳ができる人がいてくれたらいいと思う。
- ✓ 視覚障害者のサービスに、代読のサービスも合わせて受けられるような制度になると良い。

## 桑名市が、今後障害福祉施策を推進していくうえでのご意見

- ✓ 小規模作業所・施設が数多くあるが、殆どの施設実態は集団スペースでの密接作業、昼食も同じ場所、人によってはよだれ有り、食後の菌みがき介助による水しぶき、普通のマスク着用も困難で、飛沫感染が大いにある環境の改善を要する指導が必要と思う。
- ✓ 自立出来ない利用者間に感染はおこらない、おこさせないではなく、職員からの感染防止も意識しないといけない場所なので、防止体制等指導強化に向けた勉強会等もこれからは必要になると思う。
- ✓ 今、福祉ヴィレッジの計画があるのだから、そこを拠点に地域と関われるオープンな体制を考えて欲しい。例えば、地域の憩いの場や活動の場を設ける等、それが差別解消にも繋がるのかなと思う。そして何より長期的な見通しを持って、どんどん裾野が広がる発展的な福祉事業を展開して行ってほしい。一度限りの限定的な施策ではなくて流動的なものであってほしい。
- ✓ 障害者、その家族が安心して桑名市に住んで居られるように、他市町がやってない事でも、制度を超えてでもサクサクやれます。みたいな事を、どこかに記載してほしい。
- ✓ 当事者の気持ちや願いが届く、言っても無駄と思うことがないような仕組みを考えてほしい。
- ✓ 予算や直ぐには出来ない事情があるときも、出来るように共に考える姿勢をみせていただけると施策に協力して共に桑名市の福祉を良くしていこうという気持ちになれると思う。
- ✓ 世の中の失語症に対する認知度は非常に低い。医療関係者や介護に携わる方でさえ、名前を聞いたことはあるけどというレベルの人もたくさんいる。目に見える障害ではない、代償手段に乏しい、認知症と間違われやすいなど、人とのコミュニケーションをとることに消極的になってしまいがちである。家族とも十分に会話することができず、家の中でも孤立してしまうこともある。  
失語症者とその家族は、脳卒中や事故である日突然失語症のハンディを背負い、不安・戸惑い・もどかしさに苦しみながら生活している。伝えたい気持ちがあるのに、その気持ちを言葉におきかえることが出来ないもどかしさ、勇気を出して話し始めても、相手にうまく伝えられずに、伝えるのをあきらめた時の絶望感。どうして分からないんだという相手に対する怒り、なぜ話すことができなくなったんだという自分に対するいらだち。それすら言葉で表現できない。とても孤独な障害である。多くの方に失語症を知ってもらい、知ることによって障害のある方と繋がり、繋がることでお互いに支えあえる社会となれば、失語症者の自立や社会参加がしやすい環境が整っていくと思う。  
そして1日も早く失語症意思疎通支援者の養成と派遣を望む。家に閉じこもりがちで当事者の方の生活が広がり、生きていく自信を取り戻せたら良いなと思う。

- ✓ ペアレントメンターについて、私たちは色々なお母さんやお父さん方のお話を聞く機会が度々ある。会員さん以外で、お会いした事もない方たちと話す機会も多い。その方たちが話しやすく、そして私たちがその悩みや話しにふり回される事なく、精神的に負担にならない様に「お話をどのように聞くべきか…」などを勉強すべきと日頃から考えている。

今、ペアレントメンターの講座はなかなか受講出来ないのも、会員さんの負担や会員さん以外の人たちの気持ちを汲み取るコツなどを、ペアレントメンターの講座を受けて学べる機会を作って頂けると幸いである。講師の手配など、こちらからもお助け出来る事は多いと思うので、ご検討いただきたい。

- ✓ 新しく何かが出来るときは障害者の意見をきいてほしい。専門家にきいてやっていると解答があるが、生の声とは違ってくると思う。
- ✓ 市長と障害者が話し合いの場を持っていただきたいと思う。
- ✓ どこでも気楽に手話や筆談ができるようになると良い。聴覚障害といっても手話だけでなく、口話や筆談の人もいて様々なので、その人に合わせた対応をしてもらいたい。
- ✓ アンケートなど、回答するときに点字で答えられるようにしてほしい。

---

## 第2章 障害福祉サービス事業所

---

### サービス提供の状況について

---

- ✓ 短期入所(ショートステイ)、生活介護
- ✓ 施設入所支援
- ✓ 就労継続支援(B型)
- ✓ 就労継続支援(A型)
- ✓ 計画相談支援
- ✓ 計画相談支援
- ✓ 計画相談支援、就労継続支援(A型)、日中一時支援
- ✓ 地域活動支援センター
- ✓ 計画相談支援
- ✓ 計画相談支援、就労継続支援B型、日中一時支援
- ✓ 就労継続支援(B型)、放課後等デイサービス、日中一時支援
- ✓ 地域活動支援センター
- ✓ 就労継続支援(A型)
- ✓ 計画相談支援、生活介護、共同生活援助(グループホーム)、就労継続支援(B型)
- ✓ 計画相談支援、障害児相談支援
- ✓ 生活介護、就労継続支援(B型)
- ✓ 就労継続支援(B型)、日中一時支援
- ✓ 共同生活援助(グループホーム)
- ✓ 就労継続支援(B型)、日中一時支援

令和2年4月現在、提供しているサービスと利用者数、そのうち桑名市が支給決定している利用者数をご記入ください

サービス名	利用者数	そのうち桑名市が支給決定している利用者数
生活介護、施設入所支援	40 人	26 人
就労継続支援 B 型	14 人	13 人
就労継続支援 A 型	14 人	9 人
指定特定相談支援、障害児相談支援	246 人、11 人	188 人、7 人
計画相談支援	244 人	383 人
就労継続支援 A 型、相談支援、日中一時	19 人、30 人、16 人	11 人、24 人、11 人
生産活動および地域交流（地域活動支援センター桑ぱん）	10 人	5 人
計画相談（児童）	95 人	72 人
就労継続支援（B 型）、日中一時、特定相談支援事業、障害児相談支援	20 人、8 人、77 人、9 人	18 人、8 人、75 人、9 人
就労継続支援（B 型）、日中一時支援、放課後等デイサービス	19 人、10 人、7 人	16 人、8 人、7 人
生活支援	12 人	11 人
就労継続支援 A 型	8 人	3 人
生活介護、就労継続支援（B 型）、共同生活援助、計画相談支援	27 人、41 人、19 人	24 人、40 人、19 人
計画相談支援、障害児相談支援	132 人、24 人	130 人、24 人
就労継続支援 B 型事業所、生活介護	29 人、0 人	29 人、0 人
就労継続支援 B 型、日中一時	11 人、18 人	3 人、10 人
共同生活援助（グループホーム）	24 人	4 人
就労継続支援 B 型、日中一時支援	9 人、2 人	7 人、2 人

今後新たに実施を予定しているサービスがありましたら、サービスの種類と利用定員数、サービス提供開始時期をご記入ください

サービス名	利用定員数	提供開始時期
生活介護	20人	R4年4月
共同生活援助	4人	R2年7月予定
将来的に共同生活援助を検討	未定	未定
自立訓練	10人	R2年9月
生活介護	20人	未定
共同生活援助 グループホーム	5人	R2年7月

## 桑名市において現在不足していると思われるサービスや支援はどのようなものとお考えですか

- ✓ 公設(民営)の施設不足
- ✓ 公設(民営)施設は、いずれも狭隘で利用者、職員は新しい環境を希望している。
- ✓ 計画相談支援
- ✓ 医的ケアが必要な方のレスパイトが出来るサービス
- ✓ 共同生活援助
- ✓ 外国人が年々増加傾向にあり、福祉サービスを利用するにあたり、通訳が必要不可欠だと思う。(困難ケースが多く、子ども総合相談センターが関わっている事例もある)
- ✓ グループホームなどの生活支援
- ✓ 居宅介護
- ✓ 児童発達支援
- ✓ 移動系のサービス(移動支援、通院介助)
- ✓ 内職等の斡旋
- ✓ 重度医療ケア受け入れの生活介護、ショート
- ✓ 障害者受け入れのヘルパー事業所
- ✓ 入所施設
- ✓ 放課後等デイサービスは充実しているが良いが、18才以降、夕方、土日に利用できる所がなく困っている人が多い。
- ✓ ①障害児者の短期入所事業所 ②夜間や休日にも支援してくれるグループホーム ③24時間体制の重度訪問介護事業所および利用するための市の規程 ④重度障害者の親亡き後の生活の場 ⑤日中活動(生活介護、就 B など)の後、夕方からの居場所やサービス不足(日中一時支援は併用できないため)
- ✓ ①計画相談、支援者が少ない ②グループホームが少ない ③就労支援、事業所以外のワーカー ④発達障害の支援や啓発 ⑤職員のケア、相談先研修など

## 桑名市において現在不足していると思われるサービスや支援はどのようなものとお考えですか（理由）

- ✓ 2017年～2018年にかけて、いなべ市での施設整備事業に注視したため、公設の施設が不足していると感じる。
- ✓ 現在、利用者15名中5名セルフプランである。受給者証の早期発行につながっているが、サービスとつながってからを考えると人員が不足し担当をしてもらえない相談員がいない現状である。相談員がいることで、相談員から定期的な関わりを通して困り感だけでなく話を聞いてもらうことができる。本人から発信することができない場合もあり、相談員の人員を増加させることで1人に1人相談員が実現すると考える。
- ✓ 医的ケアが必要な方がサービスを受ける場合、三重県内では地域や事業が限定されている状況であるため、桑名市内に拠点となるような事業所が設置されるとありがたいと感じる。
- ✓ 共同生活援助に関しては、毎年抽出されるテーマではあるが、保護者や家族に何かあった時に利用が必要な方がみえるため、その利用見込み数等は調査しておいても良いのではと感じる。
- ✓ 新型コロナ感染症の影響もあり、外国人の方の就労は厳しく、母が無職になっているケースもある。生活が圧迫されており、通訳も自費（1回3千円～5千円）でお願いするのは限界があると思う。  
外国人の方の場合、見学、初回3か月、半年毎のモニタリングと通訳の方をお願いすると多大な負担である。  
※現在、子ども未来課で週に1回通訳が1名いて、お願いすることもあるが、いつもお願いできる状況ではないことがある。
- ✓ 固定した支援員しか居なく、長年継続して計画相談を担当して頂いている支援員の方に、利用者の立場として思いを伝える事が出来ないというクレームをよく聞くため、担当人数が多過ぎ、本人の意思や意見をしっかり聞くことが難しいとか、利用者の嫌だという気持ちに気付いてあげられない忙しさなどがある。（増やして改良されるかどうかは不安だが）
- ✓ 今、一般就労を望む方（本人、ご家族）が多く、その希望に沿って一般就労に向けた支援がなされ、かなりの方が一般就労されている。  
しかし、残念ながら自宅やアパートで自立し、生活できる方はそう多くないと感じている。そして、今は親御さんの保護があるが、親御さんの高齢化に伴い問題となる可能性があるかと危惧している。
- ✓ 対応できる事業所が少ない。
- ✓ 支給決定への制度がきつい。
- ✓ 今まで作業していた内職がなくなったりする事があり、不安を感じる事があるので、市で紹介してもらえるとありがたい。自分たちで探すには限界がある。



- ✓ セルフプランの方も居られるため、計画相談の方に関わってもらった方が選択肢が増えると考える。
- ✓ 利用希望者のほとんどが他県や他市町の施設を探しているのが現状。両親が高齢であったり、車の運転ができない主介護者が増えてきており、県外や他市町の施設への移動手段がないということもある。
- ✓ 平日は日中の通所事業所に通えるが、夜間や休日に世話人不在となるグループホームがある。知的や身体的に重度の障害者の安全を守り、支援することが難しい。週末の過ごし方に対する支援者の養成が必要と感じる。
- ✓ 重度の障害者が自宅でのひとり暮らしを望まれても、対応が難しい。
- ✓ 入所施設を作らないのであれば、グループホームなど、地域で生活できる場が必要。
- ✓ ひとり親世帯や就労している家族が帰宅する時間が遅く、仕事をパートにせざるを得なくなったり、障害者がひとりで留守番せざるを得ない状況がある。
- ✓ 今後、親が亡くなって独りになる方が多いように感じる。
- ✓ 独りでは暮らしていけない方が多いためグループホームがあると利用者は安心して思う。
- ✓ 事業所以外の支援者が当事者には必要。
- ✓ 住みなれたまちにグループホームが少ない。
- ✓ 会社と事業所の間でお互いの調整役であったり、事例検討する場がない。
- ✓ 発達障害の事例検討や情報の交換の不足。
- ✓ 今回の感染症対策もしかしだが、様々なリスクを背負い、課題が続出する職員のためのゆとりをつくること。
- ✓ 明らかに少ない(サービス全般的に)。
- ✓ 親なきあとの練習などして行く上で、短期に練習するような場もないように思う。
- ✓ 親なきあとの話しをしてもその後どうする、どこのグループホームが良いなど話しができない。
- ✓ 今現在グループホームが良いと思う方が数名いる。

## 市民や行政に知ってもらいたい取り組みや活動など

- ✓ 平成 23 年から桑名の名産品の蛤を模したアクリルたわし商品名「蛤たわし」をつくり、パッケージにはゆめはまちゃんと六華苑の写真と説明を加え、市外からの来訪客の多い六華苑とはまぐりプラザで販売している。
- ✓ 障害福祉サービス事業所紹介イベント「こねくと」というイベントを平成 31 年度(令和元年度)に開催し、令和 2 年度に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止予定としているが、今後、市民の方向けに知って頂ければ幸いである。
- ✓ 地域との交流においては、陽和中学校の福祉体験に会社設立より2年間継続して参加して頂いている。小学校の運動会の参加、地域の保育園の行事への参加など行っている。利用者さんは子供達が好きな人が多く、普段とは違う活動でいきいきしている。
- ✓ 福祉体験は学校様の話ではA型では当事業所しか参加していないということだったので、近隣の理解を得るためにも沢山の福祉サービスが参加できればと思う。
- ✓ 一般就労(最低賃金以上の収入)でもなく、福祉的就労(低い収入)でもない第3の就労を目指し活動している。つまり、障害に配慮しながらも、一般就労に近い収入が得られる事業(働き方)を日々悩みながら実施している。
- ✓ 共生(多様性を認めあう)社会の実現に向けた活動、障害のある人以外にも引きこもり、LGBT、etc 多様な生きにくさを抱えた人々が不幸せを感じない社会を目指している。多様性(様々な個性、価値観)を認め合うための第一歩は対話(一人一人の思いを予断を許さず謙虚に聞く)を通じて、多様な思いを受け入れながら新たな道筋を模索することが大切と考えている。そして、これは障害のない一般の人々も幸せを感じるものでありたい。
- ✓ 市内4事業で連携してスーパーの銘店コーナーで商品の販売をしている。
- ✓ 自店舗で、手芸品や野菜を販売している。
- ✓ リサイクル資源回収を行って利用者に工賃を支払っている。
- ✓ 地域住民との交流・御協力があつてこそ活動が成り立っている。
- ✓ もっと地域住民に知ってもらい、御協力頂く事によって工賃を上げていきたい。
- ✓ 今年はコロナ感染拡大防止のため中止したが、例年5月末の日曜日にイベントを開催している。ぜひ市民の皆様に参加していただきたく開催時にはお知らせさせていただくので、ご協力をお願いしたい。
- ✓ 福祉サービスの利用にあたって、情報提供や案内、調整、同行などの支援を本人や家族のニーズに応じて行っている。
- ✓ 毎週、地域の方といきいき体操を行っている。
- ✓ もっと多くの方に参加して、障害者の方と交流を持っていただきたい。
- ✓ 体験をわかちあう会(当事者の生活の生きづらさを知る場)の開催。
- ✓ 地域の方とのふれあいの場・カフェを実施。

## 災害時の避難支援等についての取り組みや、桑名市における災害時避難支援施策について

- ✓ 避難場所の統一(非常ベルが鳴れば決められた場所に集合する)。
- ✓ 緊急避難所が近くにあり、いずれも5分~7分で行けるので、良いと思う。
- ✓ 二次避難所として近くの病院と災害協定をしていただき、障害者の受入れ、及び近隣住民の受入れを希望している。
- ✓ 年2回の避難訓練を実施。  
想定:自然災害(地震、火災)、不審者対応  
緊急時に「どのような合図で」「どのような言葉で」「どのように動くか」を利用者職員で意識化・習慣化させる。  
様々な特性を持つ利用者が日々の意識化・習慣化で緊急時に行動化できるように考えている。
- ✓ 利用者は、それぞれの地域で生活している。災害時・緊急時に地域(自治会・班など)で誰がどのようにサポートしていくのか、本人はそれを認識しているのか、このようなシステムはあるのか、その施策を考えて頂きたい。
- ✓ 非常用トイレ、非常食(水・レトルト食品・クラッカー)の備蓄
- ✓ 当社では、火災時の避難は敷地内が広いので済むが、地震時の訓練では一番近い学校へ避難する際に、普段は車イスが必要のない方でも杖で早歩きは厳しく、車イスが必要ではないかという事になった。市の方で使用しなくなった車イスなど、ゆずって頂けたりするような支援は行って頂きたい。
- ✓ 避難所における支援:避難所は狭い空間に多くの人々が共に過ごすため、普通の人もストレスが溜まり、不寛容になりがち。そのためには平常時から障害特性に応じた対応を考えておく必要があると思う。
- ✓ 共生(多様性を認めあう)社会の進展を図っていく:ベースにこれがあれば、人々は助け合い、状況に応じた行動に結びつくと考えられる。
- ✓ 年2回防災訓練を行い、地震時の津波に対する非難訓練をしている。
- ✓ 年2回、避難訓練を行っている。
- ✓ 要援護者台帳等に登録し、何かあった時に手助けしてもらいたい。
- ✓ 災害時の特別避難所となっているが、市からの具体的なマニュアル等がないため、災害時の対応に困る状況が発生するのではと考えられる。
- ✓ 弊社では、災害に備えて、耐震強度がより強い建物へ事務所を移転した。
- ✓ 桑名市にお願いしたいこととしては、自分の判断で避難するタイミングが分からない障害者のみ、あるいはそれに準ずる世帯の方が避難訓練をする機会など、防災の担当者と協議し、実践していただきたい。
- ✓ 年に2回避難訓練を行っている。  
その他に災害があった場合の利用者の避難等について職員で話し合っている。
- ✓ 数年前に市の災害対策の方が事業所にきていただき、この地域の災害の備えに

- ついてお話していただいた。とても理解がすすんだので、定期的にお願ひしたい。
- ✓ 障害者の避難場所をあらかじめ決めてもらいたい。もしもの時、場所が決まっていると支援してもらいやすい。
  - ✓ 知的障害者だけで暮らしている家庭などへの災害時の避難誘導などをしてほしい。(早めにわかりやすく情報なども…)

**障害者を取り巻く現状や、身近に感じている課題、また桑名市に対するご意見等がございましたら、ご記入ください**

**①保健医療について（健診、訪問指導、障害の早期発見や療育、医療機関、医療体制についてなど）**

- ✓ 障害者の入院時の対応（つきそい、個室等）。
- ✓ 障害児が生まれたときは、母親の悩みは大きいので、病院・保健センター・福祉課等が今後の支援・治療等について連絡を密にし、親の心理的負担の軽減に努めていただければと思う。
- ✓ 昨年度、2才・3才の受給者証発行数が過去最高と聞いた。受給者証発行の低年齢化が進んでいる。早急に福祉サービスにつなげなければいけないケースは別だが、保健センターで経過観察し、育児相談などフォローしていただくことは難しいのか。又、受給者証を持っていながら、利用されない方もいる。
- ✓ 療育手帳を持っている方、又は障害になって長い期間経過した方など、家族も高齢になり、生活維持が難しくなっている家庭が多い。親なき後の生活を考える利用者の支援には困っているのが現実である。
- ✓ 精神障害者（発達障害者も含め）の医療だが、現状ではいわゆる薬の処方を中心としたものにとどまり、個々の生活の支援まで手が届かず、生活に支障が生じていると感じている。そのために、急性期にはオープンダイアログ（フィンランド発祥）（対話を行う治療法）、地域生活では ACT（包括的地域生活支援プログラム）に期待している。
- ✓ 放課後等デイサービスや児童発達支援の事業所の見守りや指導をお願ひしたい。
- ✓ 医療費助成制度は、手帳の等級2級相当で受けられるのはよいと思う。
- ✓ 障害者の医療費を窓口無料にしてほしい。
- ✓ 当事者、家族、場合によっては関係機関への周知をより一層お願ひしたい。
- ✓ 桑名市の保健医療システムがうまく機能していくよう、また福祉ビレッジに重度障害者の方々の支援をしていただけるよう、リハビリ専門職が常駐できるような体制づくりをお願ひしたい。
- ✓ 利用者の方で健康診断を受けている方が非常に少ない。どこでどのように受けてよいのか分からない方が多く、健康に気を付けている方が少ない。

- ✓ 多職種による事例検討の不足。発達凸凹の検査が必要に応じて気軽に受けられる体制。
- ✓ グループホームとして健診に連れていけたらと思う。個人宛でなくホームに健診のアナウンスをしてもらえないか。

障害者を取り巻く現状や、身近に感じている課題、また桑名市に対するご意見等がございましたら、ご記入ください

②生活支援について（障害福祉サービスの提供、住まいの確保についてなど）

- ✓ 相談支援の体制は充実してうれしく思う。サービス等利用計画（モニタリング）が自法人内の利用者に対して行うことは、違う視点でサービスを組み立てるといふ本来の目的から逸脱していると考えます。
- ✓ 知的障害の方が病院へ行った時に、先生の言っている事を理解できない事がよくある。（例：インフルエンザ陰性と言われても陰性の意味がわからず「インフルエンザだから休みます」と判断してしまう）
- ✓ 衣類の管理（洗たく）の習慣がなく同じ服ばかり着たり、お風呂に入らない人が何人かいる。服を買うようにすすめても「買いに行けない」と言うので、病院や買い物の同行支援の充実をお願いしたい。
- ✓ 障害のある方へ入浴券（お風呂券）の発行等をしてもらい、お風呂に入る機会を促してほしい。
- ✓ A型を始めて、作業が休みの日の過ごし方で、利用者さんの意見を聞き取り、進めたのが日中一時支援だった。そんな中で生活介護という点も悩みが多く持たれており、グループホームを探したが、思うように見つけることが出来ず、当社でグループホームの立ち上げをする事になった。4名は確保出来たが、まだ他にも次を待ってみえる方もいる。グループホームが少ないから。
- ✓ 私共もグループホーム（サテライト含む）の必要性を強く感じており、近い将来確保（建設、公共住宅、民間アパートの借用）を考えている。また、一般就労されている方、他の事業所利用の方からも住まい確保の願いがある。住まいの確保のためには、土地の確保、建物の建設、近隣住民の理解、支援する人の確保など様々な課題をクリアしていく必要がある。この課題をクリアしていくには桑名市事業者同士、保護者の連携により、具体的な解決等モデルを作り、協力しあって進めていかないと考えている。
- ✓ 障害者が市営住宅へ優先利用等できるとよい。
- ✓ 保護者の高齢化が進んでいるので、入所施設があると安心できる。

- ✓ 障害者の親亡きあとの生活を考えた時にグループホームは必要、入居希望者は多いが絶対数が不足している。また、高齢の利用者や重度の利用者が少ない職員数で対応しているグループホームだけで受け入れていくには限界があるのではと思われる。
- ✓ 住まいの確保、余暇の充実などはサービスが不足しているため、十分とはいえず、高齢になってきた主介護者や、障害特性により対応が困難な(強度行動障害など)方の主介護者、家族の負担が大きい課題がある。
- ✓ 8050 問題に近い方が多く、親が亡くなった後、金銭管理ができない方や自分では判断できない方が多く、心配である。
- ✓ 就労移行、生活訓練、生活介護の不足。

障害者を取り巻く現状や、身近に感じている課題、また桑名市に対するご意見等がございましたら、ご記入ください

③相談情報提供について（相談体制、情報提供、権利擁護についてなど）

- ✓ 親が相当な年齢になりつつあるので、成年後見制度の周知、拡大は重要であると思う。
- ✓ 「権利擁護」という言葉と意味について浸透していないと感じる。
- ✓ 自治会による回覧板で目にすることはあっても「我が事」となっていない部分もあり、様々な機会、さらに学校教育などで日頃から「権利擁護」という視点を育てていくことが必要だと考える。
- ✓ 相談支援専門員が少ないと思われる中で、相談体制や情報提供に関し全然不十分であると思い、当社で相談支援を始めました。他相談支援員さんと当社利用者さんの関わりには、疑問しかない。
- ✓ 権利擁護については、成年後見制度が代表的だが、2000年に施行されて以来、浸透してきているが、一方では課題も多い。その課題の中で大きいのが、後見人負担的の資質がある。これは、個人で行うには限界があるのではないかと考えている。これからはチームで支える形態が望ましく、そうなって欲しいと願っている。
- ✓ 相談支援事業所が運営しやすいようなサポート体制(補助金等)をつける事で、地域での相談を受けやすいようにできるとよい。
- ✓ 利用者への対応について相談できる場があるとよい。
- ✓ 困りごとを相談してもサービス等が不足しているため解決につながらないことが多い。(例えば…レスパイトを希望してもショート先がないなど)

- ✓ 相談支援事業所の情報が届きにくい環境に置かれている人達に対して(情報が得られにくい知的の方や引きこもりなどの方)、必要な支援をすることが難しい。さまざまな形で周知できるとよいと思われる。
- ✓ 日常生活自立支援事業で、本人の財産を守ることができていないケースがあった。本人からの要求通りに動いてしまい、もっと助言や支援が必要だったのではないかと感じられた。
- ✓ 相談支援員が親身になって利用者の相談・計画を立ててくれるので安心。
- ✓ 横のつながりだけでなく、縦のつながりの相談・支援。

障害者を取り巻く現状や、身近に感じている課題、また桑名市に対するご意見等がございましたら、ご記入ください

④障害児の教育・育成について（保育、特別支援教育、放課後児童対策、就学・進路指導の充実、子育て支援の充実など）

- ✓ 保・幼小中連携など以前より言葉は聞かれている。しかし、連携・支援としては、是非「切れ目のない支援・連携」を構築させてほしい。そのための人材育成及び人員増加を早急にしてほしい。
- ✓ 特支クラスの担任になる先生のスキルに差があるので、特支クラスの担任になる前に研修を受けて合格した人が担任になる等先生方の意欲のもとで特支を受けもってほしい。
- ✓ 共生(多様性を認めあう)社会の実現には、教育の果たす役割が大きいと考えている。その方策としてイエナプラン教育(ドイツ発祥、オランダで発展)が最近日本でも取り入れるところが出てきている。イエナプラン教育は共生、自律を基本として、対話を通じて、生徒同士、生徒-教員、学校-保護者との相互理解を推進し、いじめ、不登校、落ちこぼれ、保護者クレームを減らすのに有効と考えている。
- ✓ 早期発見と早期対応ができると、成長に大きな影響があるので、しっかりと連携がとれるようなシステム作りが必要。
- ✓ 特別支援学校があり、また放課後等デイサービスが多くあるため、障害児の支援は以前に比べると充実してきている。しかし、受給量の制限や短期入所の事業所が少ないことにより、重度の障害児を育てている保護者、家族の負担はとても大きいと感じている。
- ✓ 放課後デイサービスが充実しているので、安心して通っている方が多い。

障害者を取り巻く現状や、身近に感じている課題、また桑名市に対するご意見等がございましたら、ご記入ください

⑤雇用・就労について（雇用・就労の促進、地域での働き場所の創造など）

- ✓ 企業に対して障害者雇用の際し、補助や諸制度の説明を日常から広報し、経営者の理解を深めること。又雇用促進を直接・間接に企業に働きかけをお願いしたい。
- ✓ 障害者施設に仕事を依頼することができることを、一般企業に広く伝えてほしい。一般企業から仕事をもらうことが非常に難しいのが現状なので、認知してもらうところからお願いしたい。そのあたりが整うと、利用者さんの雇用促進につながりやすい。
- ✓ 当社では現在、西日野学園の卒業生は2名みえるが、桑名特別支援学校の方の実習の受け入れも、今年度より取り組んでいく予定である。
- ✓ 一般就労は多くの障害のない人の文化の中で、少数者として働く。福祉的就労は多くの障害のある人を少数の障害がない人が支援する。一般就労は高い生産性を求められる中で、補助的業務につく。福祉的就労は生産性を上げるのが難しく、低い収入に甘んじる。  
私共が目指す第3の就労は障害のある人、ない人が適正な割合で共に働き（仲間として尊重、助け合い）、高収入は難しいけれど適正な収入を得て、仲間同士信頼しあい、不幸せとは感じずに暮らすことである。
- ✓ 桑名の企業は障害者雇用に積極的に取り組んでいるが、コロナの影響でストップして行くのでは…。
- ✓ 雇用、就労には直接関係しないが、施設内、外の仕事について、行政の協力（仕事の紹介や仕事先とどうつながるかの情報提供など）をお願いしたい。
- ✓ 就労A型、就労移行を希望する方への情報提供、調整、同行などの支援を行っているが、なかなか続かない人もいる。
- ✓ 就労A型から一般就労へ結びつけていく際の判断が難しく、なかなか就労に結びすかない方や逆に家族が就労させてほしいと求めてきても本人の能力がまだ十分ではないケースなどがある。
- ✓ 就労・生活支援センターが間に入ってくれることによって、スムーズな支援ができるため、助かっている。継続してもらいたい。
- ✓ 就職して給料をもらいたいという方が非常に多いが、一般就労できて、また継続して働ける方は少なく、就職してからの支援がとても重要だと実感している。
- ✓ 会社と事業所の間でお互いの調整役が必要。
- ✓ 中小企業で障害者の働き場所が増えるようにしてもらいたい。  
（小さくて目が届きやすいという意味で）



障害者を取り巻く現状や、身近に感じている課題、また桑名市に対するご意見等がございましたら、ご記入ください

⑥スポーツ・文化芸術活動について（スポーツ・レクリエーション、文化芸術活動、生涯学習への参加促進についてなど）

- ✓ 例年6月に開催される四日市ドームでの「スポレク祭」は市内からの参加が2施設なので、参加施設が増加してほしいと思っている。
- ✓ スポーツ・文化芸術活動の分野でも共生が実現され、障害のない人の活動の中に障害のある人が居ても、違和感がないと感じる社会になってほしいと願っている。
- ✓ 障害者団体の会長ががんばっている間はよいが、その後は心配。
- ✓ 障害者の余暇を充実するため、レクリエーション指導員の育成やレクリエーション活動の場の提供をしてほしい。
- ✓ 障害のある方が多く参加できる機会を提供してもらえるとありがたい。
- ✓ 身体障害の方の中には知的や精神の方達と一緒に活動というよりは、一般の方の集まりで活動したいと希望される方も多い。ボランティア活動やサークル活動で障害のある方の参加の是非が分かるような情報提供をお願いしたい。
- ✓ レクに参加できる機会は少ない。昨年に長島でマグロの解体があり、利用者の方と参加させていただいたが、とても喜んでいた。
- ✓ 精神や発達障害を抱えている方だけのスポーツ大会。  
(例)ソフトバレー大会、ソフトボール大会
- ✓ 桑名でスポーツ大会をしてほしい。

障害者を取り巻く現状や、身近に感じている課題、また桑名市に対するご意見等がございましたら、ご記入ください

⑦まちづくりについて（施設・情報のバリアフリー、移動手段、防犯・防災についてなど）

- ✓ 電柱が歩道（白線を引いただけの歩道・ブロックでの区分の歩道）にはみ出し、通行人や車椅子のバリアとなっている。
- ✓ 歩道の傾斜がきつい。
- ✓ 福祉は身体障害のある人から始まり、知的障害、精神障害、発達障害に広がっている。身体障害は一般の人にとって分かりやすさや当事者の発信力があり改善してきているが、それ以外は分かりにくく、心のバリアフリー（共生の醸成）が重要だと思う。
- ✓ Kバスの不便なところ。
- ✓ 観光の名所になるような場所がない。

- ✓ 防犯については監視カメラの設置等、何かしら対策を行ってほしい。
- ✓ 災害時、障害者の避難場所が心配。
- ✓ 施設のバリアフリーは整備されているが、情報はホームページにあるものの誰もが手軽にほしい情報が得られる状態ではない。
- ✓ 移動手段-施設から最寄の駅までが遠く、車がないと移動が難しい。Kバスはあるが、本数が少なく、利用したい時に利用できる状況にない。
- ✓ 「歩道に段差が多い」「身体障害者が電車を利用したいのにバリアフリーがなされていない駅がある」などのご意見をいただくことがあった。
- ✓ パソコンやスマートフォンの普及により、情報を得やすくなっているように感じる。
- ✓ 今後もインターネット等を活用しての情報提供をお願いしたい。
- ✓ 地域での防災訓練は年1回はあると思うが、その際に障害のある人も参加できるようにするとよい。
- ✓ 防災訓練への参加、福祉避難所→情報交換

障害者を取り巻く現状や、身近に感じている課題、また桑名市に対するご意見等がございましたら、ご記入ください

⑧障害に対する理解の促進について（障害への理解促進、地域での交流・ふれあいについてなど）

- ✓ 立教地区ミュウウォーキングに参加（毎年3月）
- ✓ 立教 PTA 主催の立教フェスタに参加
- ✓ 事業所をはじめるとあたり、地域での理解がないと、まず開所が出来ない。A型の場所を理解し、貸して下さった大家さんや近所の方々、近隣の学校や地域のお医者さんなど、「福祉サービス事業」の内容を知って頂き、周りとのかけ橋に一人一人が成っていけるよう職員、利用者さん共同で取り組んでいる。
- ✓ ④の教育のところでは触れさせていただいたが、幼い時に培った経験が大きく、これにより自然に理解が進むと考えている。その上で、社会の中にこの土壌を継承、はぐくむ仕組みを入れていくのが望ましいと考えている。
- ✓ 講座等を開催しているが、参加者はあまり多くなく、理解促進につながっているのか。
- ✓ うちの施設は地域住民との交流が常時だが、桑名市から住民に対して情報発信してもらう事により、障害者への理解が進むと思われる。
- ✓ 施設行事、地域の行事の参加を行い、交流を持っている。
- ✓ 主に精神障害、知的障害のある方々への世間の理解が不十分で、偏見も一部であると聞いている。

- ✓ 障害者・児の兄弟に対する支援活動が不足している。兄弟が我慢したり辛い思いをすることもあるので、そのような思いを共有したり、交流したりできる場が必要と感じる。
- ✓ まだまだ理解はないと思う。作業の一環としてカフェをしているが、お客さんの中には「一生けん命働いているね」と言ってくれるかたがいて、もっと地域の中で障害者の方が当たり前で暮らせるようになるといいと思う。
- ✓ 体験発表他
- ✓ まだまだ障害者外国人など未知のものには不安を感じる人が多い。「強みと弱み（←ここが障害）があるだけ」福祉サービスの中での出来事を事例発表できる場があればと思う。

障害者を取り巻く現状や、身近に感じている課題、また桑名市に対するご意見等がございましたら、ご記入ください

⑨地域福祉の推進について（ボランティア活動の推進、関係団体との連携についてなど）

- ✓ 桑名ボランティア連絡協議会との協議が大切と考える。「NTT・OB 桑名」及び「あかつき会」様が作業手伝いをお願いしている。
- ✓ どの様なところで行われているのか、よく理解できていない。知る事があれば、日中一時などで、利用していきたい。
- ✓ 高齢化が進み、誰でも障害者（認知症、身体障害など）になっていくことが不可避で今後増えていくと予想される。現在は介護サービス、障害福祉サービスが福祉の主体だが、第一線を退いた人、家に居て働けない人などが社会参加の福祉との交流の機会を増やし、その人達が生きがいを感じる仕組み（自然と参加）が望まれる。一例として名古屋の南医療生協が取り組まれている、下から（現場）の公共（従来の公共と共に）を取り入れ、自分達の思いが実現する喜びが感じられるものが望まれる。
- ✓ 福祉サービス事業所の数も増えてきて、地域における役割を分担できるようになってきた。ボランティアグループや関係団体とも連携して、フォローをしてもらっている。
- ✓ 例年5月末にイベントを開催（今年はコロナ感染拡大防止のため中止）していて、たくさんのボランティアの方々にもご協力いただいている。今後もより一層のご協力をお願いしたい。
- ✓ ボランティア活動があることで、障害者の生活が充実していると感じる。（傾聴ボランティアや同行のボランティアなどの存在）

- ✓ 個別のケースでは医療・介護・福祉の連携はとれていると思うが、互いにどんなことをして、どんな時に相談したらよいかわからないところもある。お互いに顔のみえる関係性を築いていきたい。
- ✓ 以前、行方不明になったお年寄りの方を民生委員の方が一生けん命に探されていた。地域とのつながりは大事であると改めて感じた。
- ✓ 精神保健福祉講演、ひきこもり講座。

## その他障害者施策全般に関してご意見がありましたらご記入ください

- ✓ 親が高齢になり、障害のある子の将来の住居のことが心配になるが、重度の子には施設入所を希望される親は多い。グループホームでの生活は協調性が重要だが、自閉症の方には、それが困難で利用者間でのトラブルも多く、サテライト型のグループホームが望まれる。
- ✓ 新型コロナウイルスが世界を席卷して、共生どころか、分断が進んでいるようにもみえる。しかし、その中でも、個人ベースでは助け合いの動きも見え、救いを感じる。このように、新型コロナウイルスの問題で、人と人のつながりの大切さがクローズアップされてきているとも感じられ、これからは人とのつながりが幸せだと人々が思うようになって欲しいと期待している。つまり、人より高収入を目指すのではなく、人と人のつながりの中でそれぞれが役割を果たす(働く生きがい)ことに生きがいを感じ、収入は適正なものでよいと思える社会が実現することで、共生社会につながっていくと願っている。
- ✓ 障害を持った人達が生活をしやすいような町作り、サービスの支給ができるようにしてほしい。
- ✓ 桑名市は日中活動を支援する事業所は多いが、重度障害者を24時間(又は夜間)支援する事業所が少ないと感じる。主介護者や家族の負担軽減、レスパイトは障害者本人の支援の質や虐待防止にも大きく関わりを持っていると考えている。一時期、障害を待つ子の親が無理心中する事件があった。このような悲劇を生まないためにも、相談支援事業所や相談できる窓口の周知、主介護者や家族がレスパイトできる施設、家族の病気や用事など、何かの時に安心して預けられる施設、重度の方でも親亡き後に生活することを可能にするサービスの拡充などをお願いしたい。
- ✓ みんなが希望を持って暮らせる社会になることを切に願っている。
- ✓ 多様な価値観の中の「障害」。ジェンダーや差別、人権など地域のみなさんと共有して考えていきたい。たくさんの価値観がある。少数派は「障害」だけでない。

- ✓ 送迎をやっていない事業所と言う事もあるが、三岐鉄道を利用して来ていただいている利用者が数名みえる。いろいろなトラブルもあり心配も多々あるが、自力で事業所に来れるという事は自立に向けて大変大切な事かとも思う。しかし昨年の消費税値上がりがあり、西桑名⇄在良間の定期代がとても高価になり、利用者がとても困っている。半額とは言えないまでも学割ぐらいにはならないものかと…考える。